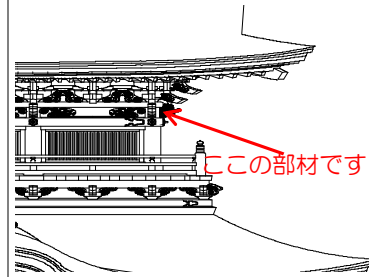




きばな  
木鼻補修状況 1

倒壊時に傷ついた箇所を補修しました。



きばな  
木鼻補修状況 2

傷ついた箇所に新材を貼り付けました。



きばな  
木鼻補修状況 3

古材をよく観察し、同じように新材を彫刻しました。  
あとは古色塗を施して補修完了です。





### 新工法の補修1

新材のアラミドロッド孔に接着剤を注入し、アラミドロッドを挿入しました。接着剤が固まったら、古材と合体させます。

### 新工法の補修2

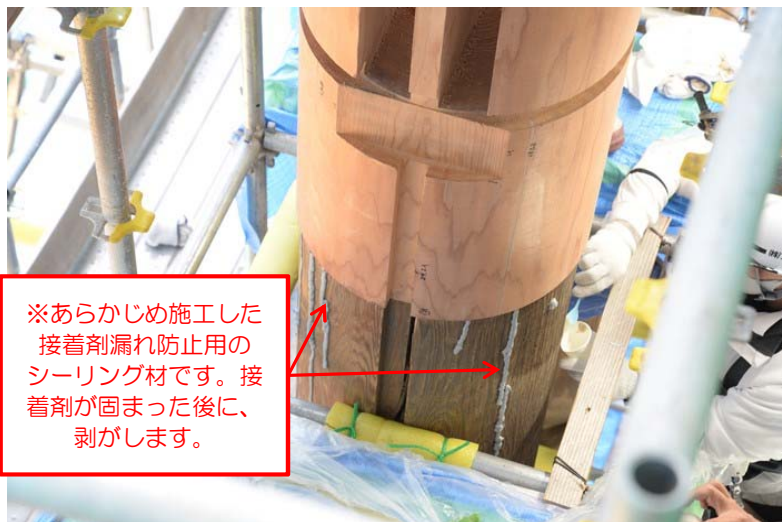
接着剤が固まったら、新材をひっくり返し、古材と合体させました。古材の孔にも接着剤を注入しました。



### 新工法の補修3

ピシヤリと胴付が納まりました。接着剤が固まるまで静かに待ちます。

クレーンを使っての作業でした。



※あらかじめ施工した接着剤漏れ防止用のシーリング材です。接着剤が固まった後に、剥がします。

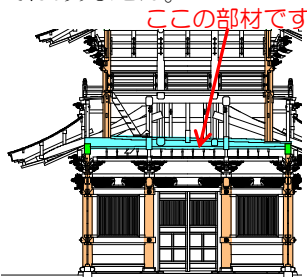


### うしばり 牛梁の加工1

牛梁は11mある楼門の部材の中でも最大級の部材です。しかし、破損や腐れがひどかったため、1/3を新材に取り替えました。写真は台持継だいもちつぎの加工をしているところです。

### うしばり 牛梁の加工2

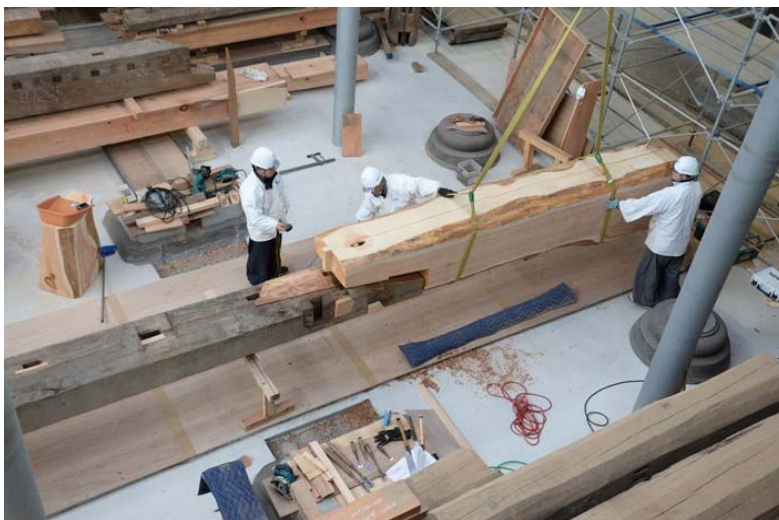
斧(ヨキ)というオノを使って、形を整えています。天井裏の部材ですので、鉋(カンナ)仕上げではありません。



### うしばり 牛梁の加工3

大きな部材であるため仮組をしています。当然、クレーンなどがなくては動かせません。

建立時は、南鳥居から橋を架け、この牛梁を牛にひかせて運んだという話が、当時かかわった大工さんの子孫の方に伝わっています。





もちおくり  
持送彫刻

下層隅木の下に取り付く持送は北西と南東の2箇所が取替となりました。取替材の彫刻が完了しました。 **この部材です**



柱頭搬入状況

アラミドロッドで継木補修する柱は全部で10本です。これまで3本の接合を完了し、残りの7本の柱頭が工場で加工され現場に搬入されました。



接着を待つ「柱」



素屋根内状況

素屋根3階より撮影(12月)。1階北西に接着を待つ柱が立てられています。

